

麻しん・風しん混合（MR）ワクチン 予防接種説明書

<麻しん（はしか）・風しんの予防>

☺麻しんとは？

麻しんウイルスの空気感染によって起こる病気です。感染力が強く、予防接種を受けないと多くの人がかかる病気です。発熱、せき、鼻水、目やに、発疹を主症状とします。最初3～4日間は38度前後の熱で、一時おさまりかけたかと思うとまた39～40度の高熱と発疹がでます。高熱は3～4日で解熱し、次第に発疹もきえませんが、しばらく発疹のあとが残ります。

はしかになると、100人中7～9人が気管支炎、肺炎、中耳炎を合併することがあります。また、麻しんにかかった人は数千人に1人の割合で命を落としています。

☺風しんとは

風しんウイルスの飛沫感染によって起こる病気です。潜伏期間は2～3週間で、軽いかぜ症状ではじまり、発疹、発熱、後頸部リンパ節腫脹などが主症状です。発疹も熱も約3日間で治るので「三日ばしか」と呼ばれることがあります。大人になってから風しんにかかると、重症になる場合があります。また、妊婦がかかると、先天性風しん症候群と呼ばれる病気により、心臓病・白内障・聴力障害などの障害を持った児が生まれる可能性が高くなります。

これらの病気を防ぐために行われるのが、**麻しん風しん混合（MR）ワクチン**予防接種です。

☺接種について

麻しん風しん混合ワクチン（生ワクチン）

ウイルスを弱毒化してつくったワクチンです。1回の接種で95パーセント以上の子どもは免疫を得ることができますが、つき損ねた場合の用心と年数がたつて下がってくることを防ぐ目的で、2回の接種が行われるようになりました。なお、麻しん及び風しんにかかったことがある場合にも混合ワクチンを使用することが可能とされています。また、ガンマグロブリン製剤の注射を受けたことがある子どもについて接種時期については、かかりつけ医と相談してください。

◎第1期

接種対象者：接種時点で竹富町の住民である生後12月から生後24月に至るまでの間にある者

回数：1回

接種方法：皮下注射

◎第2期

接種対象者：5歳以上7歳未満の者であって、小学校就学の始期に達する日の1年前の日から当該始期に達する日の前日までの間にある者

※接種が可能な年度になりましたらお知らせが届きます。（別紙竹富町子どもの定期予防接種実施についてをご確認ください）

回数：1回

接種方法：皮下

- ・第1期の予防接種はできるだけ早期に接種を行う。
- ・麻しんまたは風しんに既にかかったお子さんについては、かかった病気以外に係る予防接種を行う際は、混合ワクチンを使用する事ができます。

☺接種後にみられる主な副反応

主な副反応は発熱と発疹です。接種部分が赤くなったり、腫れたり、しこりなどの反応のほか、じんましんや関節痛、けいれんなどがみられます。